

クロヒカゲ其他のジャノメテフ科の飼育記録

磐瀬太郎

SOME RECORDS ON THE REARING OF *LETHE DIANA*
AND OTHER SATYRIDS (LEPIDOPTERA)

By TARO IWASE

I まへがき

本誌第14巻第5/6号に發表された石村清氏の“クロヒカゲの生活史に就いて”を読み、私も近年クロヒカゲを飼育したことがあるので、氏の結果と私の夫れとを較べて興味深いものがあつた。私の最近飼育したのは、栃木縣新那須で8月中旬に採卵、飼育し、9月中旬4齡の途中で神奈川県茅ヶ崎に移して飼育を續けたものであつた。新那須は海拔740米の避暑地であるのに對して、茅ヶ崎は東京より餘程暖かい湘南の海岸地で、自然にはクロヒカゲの棲息を見ぬ所である。この様に飼育の途中で條件が變つてゐるので、此の飼育は勿論普通状態にあつたとは云ひ難く、況んや野外の自然状態に於けるものと較べることは出來ないが、然し私は同時に同じ條件の下でヒカゲテフも飼育し之と對比しながら記録して居たので、此の結果も幾分の参考になるものと信じて此處に發表することとした。

この時に得た私の結論は“クロヒカゲは4齡式で成長が早く、ヒカゲテフは5齡式で遅く、多くは年内に蛹化しない。”と云ふことであつた。之は石村氏の飼育に於いてクロヒカゲが凡て5齡式であつたのと比較して、土地と氣候の差違がこれだけの差をもたらしたのかと驚くべきものがあつた。私のノートには次の様に書いてある。

“クロヒカゲはヒカゲテフに比し成長の早きこと驚くばかりなり。17日にして3齡を終り、20mmに達せるに、ヒカゲテフは此の間に漸く2齡を終りて9~10mmなり。従つて食草の量も段違ひなり(8月28日記)”

II クロヒカゲ (*Lethe diana* BUTLER)

第1表中産卵日の判明してゐるものは第6號(VIII/17日産卵)のみであるが、此の表以外の飼育記録では卵期は8月24日(産卵)~30日(孵化)、同25日~31日、同27日~9月2日と平均して6日間で、幼蟲期は23日、蛹期は8日で、發育期間は計37日であつたと云へる。石村氏(文獻1,p.186)に依れば、越冬しないクロヒカゲの幼生期は55~60日であるから、此の結果とは非常な相違である。

幼蟲の色型は石村氏の記事と同じく、第1表にもある通り4齡(私の場合の終齡)で2種に分れる。

私のノートには次の如く書きとめてある。

“(9月6日)4齡に達したるクロヒカゲ3頭中、1頭色彩の極めて顯著なるあり。1)背線黒

第1表 クロヒカゲの飼育例 (1939年8月~9月)

番號	採卵	孵化	1 眠了	2 眠了	3 眠了	蛹化	羽化	性	幼蟲型
1	VIII/16 ^B	VIII/20 ^B	VIII/25 ^B	VIII/30 ^B	IX/6 ^B	IX/13 ^B	IX/20 ^B	♀	緑色型
2	VIII/16	VIII/21	VIII/26	VIII/31	IX/6	IX/13	IX/20	♂	"
3	VIII/16	VIII/21	VIII/26	VIII/31	IX/6	IX/13	IX/21	♀	褐色型
4	VIII/16	VIII/21	VIII/26	VIII/31	IX/8	IX/14	IX/22	♂	"
5	VIII/16	VIII/22	VIII/26	IX/1	IX/8	IX/14	IX/22	♂	"
6	VIII/17	VIII/23	VIII/27	IX/2	IX/8	IX/15	IX/23	♀	緑色型
7	VIII/19	VIII/23	VIII/28	IX/2	IX/9	IX/17	IX/25	♂	褐色型
8	VIII/19	VIII/23	VIII/29	IX/3	IX/10	IX/18	標本とす		"

色, 2) 亞背線黄色, 3) 氣門黑色, 4) 其他各節に黒點多く, 殊に第5・6・7節の亞背部にはヒカゲテフに於いて微に現はれる白紋と同様の黒紋あり。この内2), 3) の特徴は3頭に共通なり。

(9月7日) 前記の1頭夕刻全く褐色型となり, キマダラヒカゲの幼蟲と同色なり。

(9月8日) 本朝検するに4齢5頭中黒紋あるもの3頭, 3齢と大體同じ緑色のもの2頭なり。第3齢時代に於いて顔面に黒線の多きものは前者となる。”

蛹は全部一様に淡褐色半透明であつて, シヤール内に化蛹した爲, 石村氏が経験された様に深緑色型のものとは得られなかつた。

III ヒカゲテフ (*Lethe sicelis* HEWITSON)

第2表 ヒカゲテフ (*Lethe sicelis* HEWITSON) の飼育例 (1939年8月~9月)

個體番號	産卵	孵化	1 眠了	2 眠了	3 眠了	
1	VIII/7 ^B	VIII/14 ^B	VIII/21 ^B	VIII/31 ^B	IX/14 ^B	各個體とも10月中、旬より冬眠に入る
2	VIII/7	VIII/14	VIII/21	IX/2	IX/15	
3	VIII/10	VIII/18	VIII/25	IX/4	IX/25	
4	VIII/10	VIII/18	VIII/25	IX/7	IX/28	
5	VIII/16	VIII/21	VIII/28	IX/9	IX/30	
6	VIII/17*	VIII/23	VIII/30	IX/10	IX/30	
7	VIII/25*	VIII/29	IX/5	IX/15	死亡	

* 印は當日卵を採集せるもの, 従つて眞の産卵日は不明。

これらのヒカゲテフの幼蟲は越冬中恐らく濕氣の不足からか大半死亡したが, 生き残つたものの内最初の1頭は翌年4月27日に脱皮して終齡に達した。越冬した幼蟲には第5・6・7節の亞背線に黄白色の紋を生じ, 更にその内側(背線に近い方)に紅點を裝ひ, 一般に

知られてゐる綠色に黄條のある幼蟲とは著しく異つて見えた。之は不自然な越冬の影響かとも考へられる。(材料は河田黨氏に送附したので、手許には其後の記録はない。) 然しルリモンジャノメの幼蟲(文獻2, p. 215)は終齡に於いて第5・6節の亞背部に青色の斑點を生じ、又第4・5・6・7節に淡色橙色紋を生ずるものがある故、一般にジャノメテフ科の幼蟲には斯る斑紋の發現する素質があるものかもの知れない。尙、第2表の外にも8月6日孵化、同13日第1回脱皮、同23日第2回脱皮、9月8日第3回脱皮、同15日第4回脱皮、同28日蛹化し(此の蛹は標本としたので其の後の資料はない)幼蟲期間が53日に互り、年内に蛹化した記録があるが、此の結果を普通の経過例と比較すると、第3表の如く甚しい差異がある。即ち此の個體では、3齡期が異常に長く、一旦越冬の準備に入つたのが或は再び思ひかへして成長を續けた様にも考へられる。

第3表 ヒカゲテフ (*Lethe sicelis* HEWITSON) の飼育例

	1 齡期	2 齡期	3 齡期	4 齡期	5 齡期	全幼蟲期間
異常例 (?)	7 日	10 日	16 日	7 日	13 日	53 日
正常例	6 日	6 日	7 日	6 日	11 日	36 日
差	1 日	4 日	9 日	1 日	2 日	17 日

この表に用ひた正常例は本年度(1941)の東京に於ける飼育の例で、7月18日産卵、同25日孵化、同31日第1回脱皮、8月6日第2回脱皮、同13日第3回脱皮、同19日、第4回脱皮、同30日蛹化、9月8日羽化と云ふ経過を示したものである。即ち此の場合、蛹期は9日間であつた。尙、蛹期の記録としては WILEMAN の5日間(1900年、神戸、9月20日蛹化、同25日羽化)(文獻5, p. 260)、長野菊次郎氏の11日間(1909年、岐阜、5月24日蛹化、同6月4日羽化)(文獻4, p. 593及文獻5, p. 208)があるが、前者は疑はしい。

ヒカゲテフの幼蟲にも褐色型が存在するであらうことは江崎悌三博士が述べて居られ、(文獻5, p. 208)私も同じ意見を抱いてゐるが、未だめぐり會つて居ない。又、蛹は鮮綠色に白紋を有する型以外を知らない。

IV ヒメジャノメ (*Mycalesis gotama* MOORE)

WILEMAN (文獻3, p. 265)はヒメジャノメの幼蟲にも褐色型のあることを報告し、これを鱗翅目の幼蟲によく認められる蛹化前の單なる變色と解すべきかと述べて居るが、5月12日採集、同31日羽化と云ふその記録から見ると、蛹期を普通の長さで假定すれば、蛹化迄に1週間近くも褐色を呈しもつた筈であるから、之は單なる變色ではなく確實に褐色型であつたと云へやう。参考として筆者の飼育記録を掲げれば次の様である。

8月28日産卵、9月3日孵化、同9日第1回脱皮、同14日第2回脱皮、同18日第3回脱皮、同24日第4回脱皮、10月3日蛹化、同14日羽化。即ち卵期6日間、幼蟲期30日間、蛹期11日間(新那須一茅ヶ崎, 1939)で、食草はスズメノヒエとメヒジハを與へた。

ヒメジャノメの幼蟲に関しては上記の WILEMAN の報告の外文獻6と7にその記事がある。

V キマダラヒカゲ (*Neope goschkevitschii* MÉNÉTRIÈS)

以上に述べたクロヒカゲ、ヒカゲテフ、ヒメジャノメの幼蟲はいづれも最初が綠色型で後に褐色型を生ずるのであるが、キマダラヒカゲの幼蟲は始めから褐色型の1型のみが存在するに過ぎない。但し孵化直前から1齡にかけて顔面に非常に濃色な雲形紋のある幼蟲を生ずる卵塊と、かかる斑紋のない幼蟲を生ずる卵塊とが存在し、私は兩者を別種かと楽しみにした経験がある。然し幼蟲が夫れ程異つて居ても、之より現はれる成蟲には變化はない。

最後にキマダラヒカゲの飼育例を2例掲げる。

1) 8月14日産卵, 同22日孵化, 同27日第1回脱皮, 9月1日第2回脱皮, 同7日第3回脱皮, 同16日第4回脱皮, 同30日蛹化, 越冬, 翌年4月22日羽化(新那須~茅ヶ崎~東京, 1939~1940)。

2) 5月26日産卵, 6月3日孵化, 同8日第1回脱皮, 同13日第2回脱皮, 同17日第3回脱皮, 同22日第4回脱皮, 7月3日蛹化, 同16日羽化(東京, 1940)。

キマダラヒカゲの幼蟲に関する記事は文獻5, p. 209 に詳しく, この他文獻7がある。

文 獻

1. 石村 清: クロヒカゲの生活史に就いて. 昆虫, vol. 14, nos. 5/6, pp. 184~196, 1941.
2. 洪氏雪梅: ルリモンジヤノメの飼育觀察. 昆虫界, vol. 4, no. 26, pp. 212~224, 1937.
3. A. E. WILEMAN: Notes on Japanese Lepidoptera and their Larvae; part 1. Philip. Journ. Sci., vol. 19, no. 3, pp. 247~266, 1914.
4. 長野菊次郎: ヒカゲテフに就きて. 昆虫世界, vol. 14, no. 12, pp. 590~593, 1910.
5. 長野菊次郎・江崎悌三: 日本産蝶類の幼蟲, 蛹等の記録 (II). Zephyrus, vol. 3, nos. 3/4, pp. 207~210, 1931.
6. 名和梅吉: ウスイロコジヤノメに就て. 昆虫世界, vol. 4, no. 10, pp. 373~374, 1900.
7. 木下周太: キマダラヒカゲ及びヒメジャノメ幼蟲. 日本昆虫圖鑑, 幼蟲篇, pp. 2158~2159, 1932. (10/IX. 1941)

寫 眞 圖 版 説 明 (實物より稍々縮小)

1. クロヒカゲ (*Lethe diana*) の終齡幼蟲 (綠色型1頭, 褐色型3頭)
2. キマダラヒカゲ (*Neope goschkevitschii*) の終齡幼蟲 (大形の方) と
ヒメジャノメ (*Mycalesis gotama*) の終齡幼蟲 (小形の方2頭)
3. ヒカゲテフ (*Lethe sicelis*) の終齡幼蟲 (クロヒカゲより頭角短かし)
4. 左 クロヒカゲ (*L. diana*) の蛹
右 ヒカゲテフ (*L. sicelis*) の蛹 (クロヒカゲより丸味あり)
5. 左 キマダラヒカゲ (*N. goschkevitschii*) の蛹
右 ヒメジャノメ (*M. gotama*) の蛹 (ヒカゲテフに似るも小型, 腹端曲らず)

昆蟲第15卷 第3號 磐瀬太郎 第1圖版

